

一般社団法人香取青色申告会長賞

コロナ禍で知った税の大切さ

香取市立小見川中学校三年

築地優奈

このコロナ禍の中で私の生活は一変した。いろいろな行事が中止となり今まで普通に行っていたことができなくなった。医療従事者として働いている母は、コロナウイルスの感染予防として外出や家族旅行もひかえている。

そんな中テレビで国がコロナウイルスの影響で消費税を上げる検討をしていることを知った。それを見た時は、なぜ消費税をまたあげなければならぬのか疑問に思った。母にそのことを聞いてみるとコロナウイルスとたたかう医療現場ではたくさんの税金が使われていることを教えてくれた。調べてみるとコロナワクチン接種にも多くの税金が使われており患者は自己負担なくうけることができている。また、医療従事者を守る手袋やマスク、防護服も医療費の中にふくまれ税金が多く使用され、コロナウイルスの検査、入院費、特別定額給付金、GOTOトラベルキャンペーンなどすべて税金が使われていた。身近な所では、学校の各教室に消毒アルコールが設置され、非接触

型体温計で検温できるようになった。これらにも税金が使われていた。

今まで、消費税として払っていた税金がいろいろなことに使用されていることを私は知らなかった。私達はただ税金を払うだけでなく、税について知る必要があると思った。

税には大きく分けて国税と地方税がある。国税は国に、地方税は住んでいる都道府県や区市町村に税金を納める。税の中で最も身近にあるものは消費税だ。国の税収は約六十兆円だが消費税による税収は約二十兆円と約三分の一の割合を占めている。つまり中学生の私達でも国にかなりの額の税金を納めているといえる。

全国から集められた税金は国民生活の基盤となる環境を整備に使われている。例えば、年金や災害対策、道路整備や学校教育、医療費や社会福祉費などがあげられる。

日本全国から集められたお金は、地域や国などの大きな単位になると莫大な金額になる。それらのお金は、生活が困難な高齢者

や障害で働けず、収入が不安定な人達を支えるお金、また、地震や洪水などの自然災害によって被害をうけた人を助け、支えるためのお金として使われている。このように、自分が納めた税金が誰かの役に立ち、なんらかの形で戻ってきている。

私の母のように、コロナ禍で働いている医療従事者を守るワクチンや医療用品に税金が使われていると思うと今まで知らなかった税の大切さを身近に感じることができた。税金は人々がお互いを支えあう手段であり水のようにいろいろな人々にいろいろな用途で使用されている。自分が使ったお金、納めた税が、誰を支えているのかを考えることがとても重要で本質的なことだと思った。